

## 式辞

木々の芽吹きに春の柔らかな光が重なり、校庭を渡る風にも新しい季節の息吹が感じられる今日この良き日に、

P T A会長 堀口 英明 様、

同窓会副会長 小淵 一明 様、

をはじめとする、ご多用の中ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、ならびに保護者の皆様に見守られ、群馬県立前橋南高等学校「第四十八回 卒業証書授与式」を挙行できますことは、本校にとってこの上のない喜びであり、厚く御礼申し上げます。

只今、卒業証書を授与いたしました百八十九名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。三年前、期待と不安を胸に本校の門をくぐった皆さんが、たゆまぬ努力を積み重ね、多くの壁を乗り越えて今日という日を迎えました。その凛とした姿は、まさに本校の校訓である「独立自尊」「進取果敢」「下学上達」を体現したものであり、校長として深い感銘を受けるとともに、心からの賞賛の拍手を送ります。皆さんは、この前橋南高校で培った時間と経験に、大きな自信と誇りを持ってください。

今日の喜びは、皆さん自身の努力の結晶であることは言うまでもありません。しかし同時に、忘れてはならないのは、今日まで皆さんを慈しみ、深い愛情で支えてくださったご家族、そして温かく見守ってくれた周囲の方々の存在です。この後、ぜひその方々へ、感謝の言葉を届けてほしいと思います。

保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

この三年間、語り尽くせぬ喜びも、またご心配やご苦労もあったことと拝察いたします。ときに厳しく、ときに優しくお子様を支え、本校の教育活動に多大なるご理解とご協力を賜りましたことに、改めて深く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。皆さんの高校生活は、最上位目標に掲げる「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」を具現化する「S A H (Student Agency Highschool)」の取り組みと共にありました。

なぜ今、皆さんにこの力が求められているのか。門出に際し、その背景を紐解きながら饒の言葉を贈ります。

現在、私たちは「Society 5.0」と呼ばれる、かつてない変革の時代の入り口に立っています。これは「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」と

されています。分かりやすく言うと、交通機関の自動走行やA I、ドローン、ロボット等の最先端のテクノロジーを世の中に広く行き渡らせることにより、課題解決、経済発展を図る社会ということになるかと思います。

社会の変化は他にもあります。例えば、急速な少子高齢化と人口減少による、日本の社会構造上の課題などもそうでしょう。皆さんはこのような複数の変化に対し、柔軟に対応していく必要が出てきます。

皆さんがこれから歩む道は、昨日までの常識が明日には塗り替えられるような、激しい変化の連続となるでしょう。そのような社会において、最も大切なことは「変化に流される」ことではなく、「変化を主体的に捉え、自ら最適解を創り出していく力」です。

変化が起きているとき、皆さんはそれぞれ色々な価値観を持つと思います。新しいことに果敢に挑む者もいれば、伝統を守りながら緩やかな変化を望む者もいるでしょう。どの立場に立つにせよ、大切なのは、対話を通して他者を理解し、自ら学び続け、「判断」を恐れず、「行動」に移すことです。なぜなら、皆さんのその一つひとつの判断と行動が、これからの日本を、そして皆さんが暮らすこの地域社会を形作っていくからです。

皆さんは前南での三年間、授業や行事、部活動、そしてSAHの活動を通して、「自ら考え、判断し、行動する」経験を幾度も重ねてきました。その経験は、皆さんがこれからの予測困難な時代を切り拓いていくための、揺るぎない「武器」となります。

どうか臆することなく、自分自身の可能性を信じ、新しい社会の創造に積極的に参画して行ってください。

結びに、本日、ご列席いただきました皆様には、三年間にわたり、本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、感謝申し上げます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。また、ご多用の中をご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、本校へのご支援ご協力に改めて感謝申し上げます。

令和八年三月二日

群馬県立前橋南高等学校長 原 拓史